

## 今期業況天気図

### 今期業況天気図

期間：令和4年10月～12月（売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較）

全業種総合の天気図は「雨」。令和4年10月～12月期の総合業況DIは▲32と、前期▲32と変わらなかった。

業種別では、小売業・卸売業が▲34（前期差11ポイント増）と大きく改善し、建設業も▲37（前期差5ポイント増）とやや改善した。製造業は▲35（前期差1ポイント減）、飲食業・サービス業は▲25（前期差3ポイント減）で前期とほぼ同じであった。

円安の影響を受けにくい飲食業・サービス業を除いて、全業種が雨で、厳しい景況が続いている。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲ 14	▲ 14	▲ 21	▲ 21	▲ 9
採算	▲ 33	▲ 36	▲ 38	▲ 38	▲ 28
仕入単価	▲ 71	▲ 86	▲ 84	▲ 81	▲ 53
販売単価	12	17	6	27	5
従業員	23	21	29	14	25
資金繰り	▲ 24	▲ 26	▲ 26	▲ 31	▲ 20
今期業況 (総合判断)	▲ 32	▲ 35	▲ 37	▲ 34	▲ 25
今期業況 天気図					

業況天気図凡例					景気観測調査
 快晴 DI値 31以上	 晴れ DI値 30～11	 薄曇り DI値 10～▲10	 小雨 DI値 ▲11～▲30	 雨 DI値 ▲31以下	<<景気観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。

### 参考) 今期業況天気図の推移

	全産業	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
3四半期前 令和4年1月～ 3月期					
2四半期前 令和4年4月～ 6月期					
1四半期前 令和4年7月～ 9月期					
今期 令和4年10月～ 12月期					

## 今期業況天気図

### 今期業況天気図(小規模事業者)

(商業・サービス業従業員5名以下、その他の業種20名以下)

期間:令和4年10月~12月(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較)

小規模事業者のみの全業種総合のDIは▲37(前期差2ポイント増)で天気図は「雨」。小売業・卸売業は▲39ポイント(前期差11ポイント増)で大きく改善した。飲食業・サービス業は▲29(前期差3ポイント増)と建設業は▲39(前期差3ポイント増)で小幅の改善。製造業は▲44(前期差3ポイント減)とやや悪化した。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲22	▲26	▲23	▲26	▲17
採算	▲39	▲46	▲37	▲47	▲32
仕入単価	72	83	84	84	50
販売単価	8	11	5	27	1
従業員	15	16	27	2	12
資金繰り	▲28	▲33	▲30	▲35	▲21
今期業況(総合判断)	▲37	▲44	▲39	▲39	▲29
今期業況 天気図					

### 今期業況天気図(小規模事業者以外の中小企業)

期間:令和4年10月~12月(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較)

全業種総合のDI値は▲21と前期の▲20からほぼ変わらず、天気図は「小雨」。建設業は▲23(前期差20ポイント増)と大幅に改善し、小売業・卸売業も▲27(前期差8ポイント増)で改善。前期は改善が進んだ製造業は▲18(前期差8ポイント増)と飲食業・サービス業は▲20(前期差10ポイント減)は悪化に転じ、すべての業種がDI値20前後の「小雨」となっている。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	2	11	0	▲13	3
採算	▲22	▲16	▲50	▲24	▲21
仕入単価	71	92	86	75	58
販売単価	19	30	18	27	10
従業員	39	32	50	35	43
資金繰り	▲16	▲11	0	▲24	▲18
今期業況(総合判断)	▲21	▲18	▲23	▲27	▲20
今期業況 天気図					

業況天気図凡例					景気観測調査
 快晴 DI値 31以上	 晴れ DI値 30~11	 薄曇り DI値 10~▲10	 小雨 DI値 ▲11~▲30	 雨 DI値 ▲31以下	<<景気観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。

## 次期見通し業況天気図

### 次期見通し業況天気図

令和5年1月～3月見込(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・次期業況DI値は今期との比較)

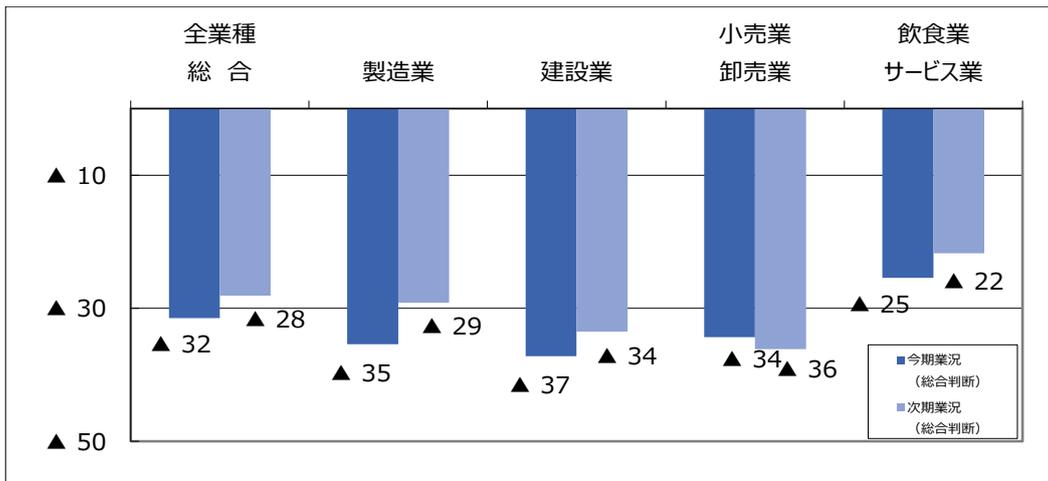
全産業の次期見通しの天気図は、▲28(今期差4ポイント増)で「小雨」と、小幅ながら改善に転じる見込み。

産業別にみると、製造業は▲29(今期差6ポイント増)で、改善に向かう見込み。飲食業・サービス業は▲22(今期差3ポイント増)、建設業は▲34(今期差3ポイント増)と、小幅の増加の予想。小売業・卸売業は▲36(今期差2ポイント減)で今期からほぼ変わらない見込みである。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲16	▲13	▲22	▲27	▲11
採算	▲27	▲27	▲34	▲36	▲21
仕入単価	▲60	▲70	▲74	▲67	▲46
販売単価	5	5	1	19	0
従業員	21	18	26	12	24
資金繰り	▲20	▲19	▲24	▲25	▲18
次期業況 (総合判断)	▲28	▲29	▲34	▲36	▲22
次期業況 天気図					

業況天気図凡例					<<景気観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。
快晴  DI値 31以上	晴れ  DI値 30～11	薄曇り  DI値 10～▲10	小雨  DI値 ▲11～▲30	雨  DI値 ▲31以下	

### 参考) 今期と次期の業況DI



## 次期見通し業況天気図

### 次期見通し業況天気図(小規模事業者)

(商業・サービス業従業員5名以下、その他の業種20名以下)

令和5年1月～3月見込(売上・採算・資金繰り・仕入単価・販売単価・従業員・次期業況DI値は今期との比較)

全産業の次期見通しは▲33(今期差4ポイント増)と小幅の改善で「雨」が続く予想。産業別にみると、製造業は▲37(今期差7ポイント増)は改善に向かう予想である。飲食業・サービス業は▲25(今期差4ポイント増)、建設業は▲36(今期差3ポイント増)とやや増加の見込み。と、小売業・卸売業は▲39(今期差±0ポイント)は今期と変わらない予想である。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲22	▲22	▲27	▲33	▲15
採算	▲31	▲32	▲35	▲40	▲23
仕入単価	▲60	▲66	▲72	▲69	▲43
販売単価	0	▲6	▲1	16	▲2
従業員	14	15	25	2	12
資金繰り	▲24	▲26	▲26	▲27	▲19
次期業況(総合判断)	▲33	▲37	▲36	▲39	▲25
次期業況 天気図					

### 次期見通し業況天気図(小規模事業者以外の中小企業)

令和5年1月～3月見込(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・次期業況DI値は今期との比較)

全産業の次期見通しの天気図は、▲19(今期差2ポイント増)で、「小雨」の予測。産業別にみると、建設業は▲18(今期差5ポイント増)、製造業は14(今期差4ポイント増)、飲食業・サービス業は▲16(今期差4ポイント増)といずれもやや増加する予想である。小売業・卸売業は▲32(今期差5ポイント減)はやや悪化する見込みである。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲3	6	14	▲16	▲4
採算	▲21	▲18	▲27	▲29	▲18
仕入単価	▲62	▲76	▲86	▲65	▲50
販売単価	14	27	18	25	3
従業員	35	25	36	29	43
資金繰り	▲13	▲4	▲14	▲21	▲15
次期業況(総合判断)	▲19	▲14	▲18	▲32	▲16
次期業況 天気図					

業況天気図凡例				
 快晴 DI値 31以上	 晴れ DI値 30～11	 薄曇り DI値 10～▲10	 小雨 DI値 ▲11～▲30	 雨 DI値 ▲31以下

<<景気観測調査>>  
前年度同時期の景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。  
「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。

## 業況DIの推移

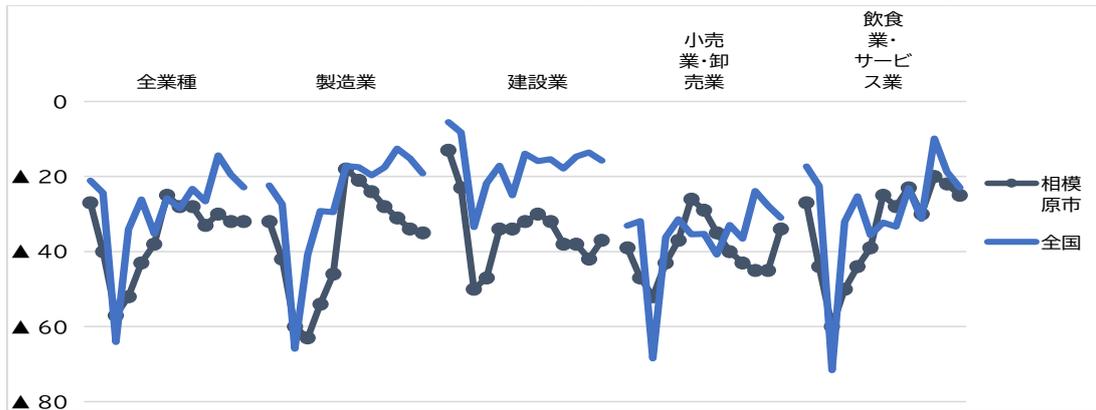
### 業況DI(前年同期比)の推移

全産業の業況DIは、今期は▲32と、前期▲32(前期差±0ポイント)と変わらず、1年半以上停滞が続いている。

産業別にみると、製造業は▲35で減少が続く。建設業は▲37とやや持ち直し。小売業・卸売業は▲34で、1年あまりの低迷状況から改善に転じた。飲食業・サービス業は▲25で改善が頭打ちとなっている。

全国と比較すると、製造業と建設業で全国との差が広がったままである。小売業は改善し全国並みとなった。

(令和元年10-12月期～令和4年10-12月期、前年同期比)

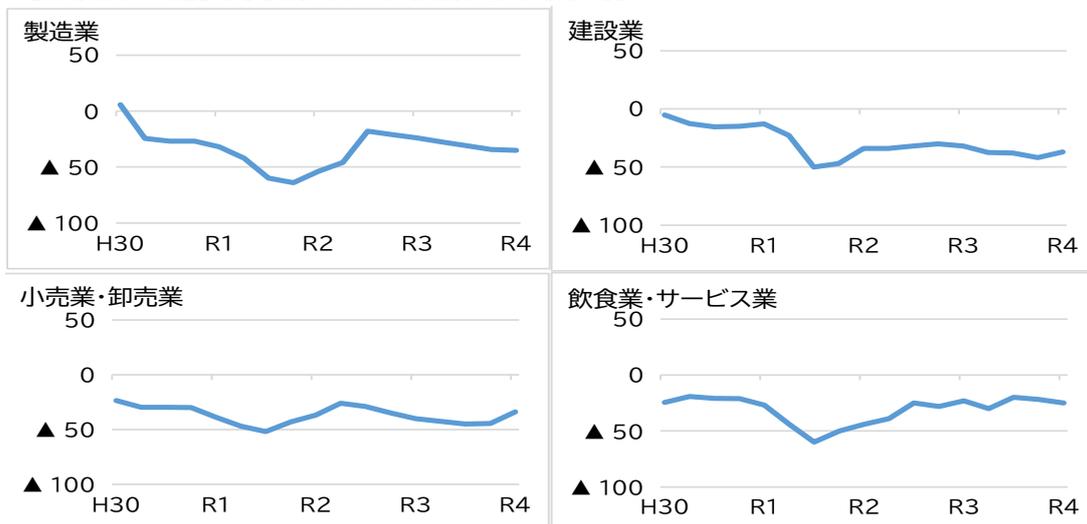


※全国値は、中小企業庁「中小企業業況調査報告書」より引用、「業況判断DI」を使用。

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※業況DIについて、当所では「総合判断」、中小企業庁は「業況(自社)」を質問項目としている

### 参考)業況DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



## 業況DI(特徴的なトピックス)

産業別に寄せられた特徴的なトピックスは以下のとおりである。

### 【製造業】

- ・製品需要は増加しているが相変わらず部品調達の不安定性が続いていて先読みが難しい。【産業用モータ制御装置の製造販売】
- ・半導体の活発な設備投資に支えられ、当社業績は好調であったが、ここに来て、半導体が供給過剰となり、半導体メーカーが設備投資を縮小する動きとなった。【電子部品製造販売】
- ・食材の値上りに加え、最低賃金の大幅な上昇、零細企業経営者は厳しい状況である。【弁当・惣菜】
- ・売上価格の見直しを取引先の大企業に認めてもらえない。様々な資料を用意して交渉に当たったがゴネられ、最終的には全てのコストの情報を提出するよう要求され、価格改定を諦めざるをえなかった。【ショットブラストおよび下塗り塗装】

### 【建設業】

- ・過去に例のない物価上昇への対応が厳しい。【土木工事・建築工事他】
- ・建設業においては令和4年12月期までの仕事量は増加、従業員を2名増。景気は上昇傾向だが賃金、仕入単価の上昇があり、収益上昇にはならない。介護事業においては、引き続き人員不足。【クリーンルーム、居宅介護支援】
- ・主要材料費の価格上昇に対応しての受注単価改定が追いついてない状況がしばらく続くと思われる。【外構工事業】
- ・設備機器の欠品の影響により受注から納品までの期間が延びています。【管工事】

### 【小売業・卸売業】

- ・かながわPay、サンキューキャッシュバックなどの反応が良い。【宝飾品】
- ・運送費用の値上げが影響。【建設機械、輸出販売】
- ・近隣に競合店が増えている。【処方箋調剤、OTC化粧品】
- ・新車納車遅れにより、マーケットに商品が少なく、仕入れ困難。【建設機械、トラック買取販売】

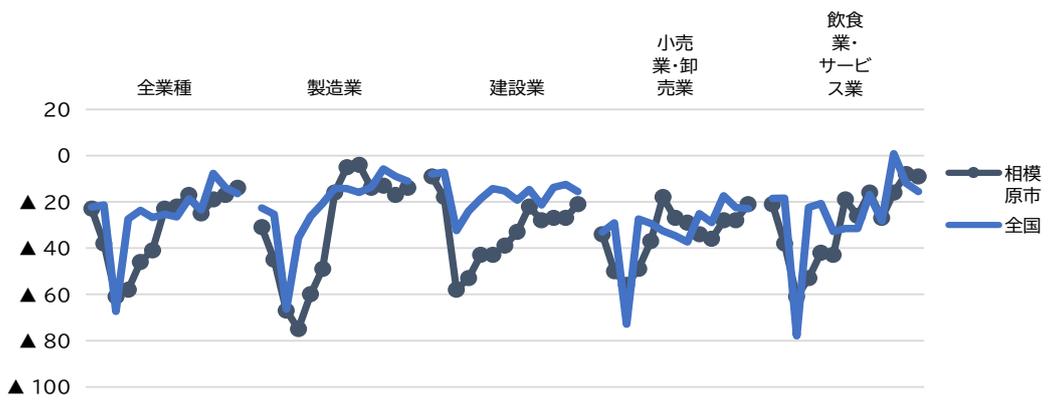
### 【飲食業・サービス業】

- ・助成金を活用する企業からの見積もり、制作依頼が増加している。【編集・グラフィックデザインワーク、商業印刷物全般、ホームページ・ロゴマーク・看板・サイン】
- ・コロナウイルスの感染者が出ると営業日が減少してしまうためすぐに資金繰りが悪化方向へ向かってしまう。人件費、仕入単価の高騰が感じられる。【介護保険事業】
- ・まだまだコロナの影響があり、家飲みになれてしまっているお客様のもどりが少ない。家飲みのお客様へもアピールできるよう、冷凍ピザなど販売促進をしている。【バー業務、カクテル作成、提供。ピザ・パスタ類の作成、提供】
- ・仲介業務の選任従業員の採用により営業成績が伸びております。新規顧客の開拓にも力を入れて業績を伸ばしたいと思っています。【不動産賃貸管理及び仲介】
- ・事業所のテレワーク増加により、顧客のオフィスの設備に対する思考が変わってきた為、オフィスや金融業界のセキュリティ製品の受注が減少しています。それに伴い元請け会社もセキュリティ製品の部門を縮小する傾向にあります。【セキュリティ製品の電気工事設定作業、点検保守作業】

売上DI(前年同期比)の推移

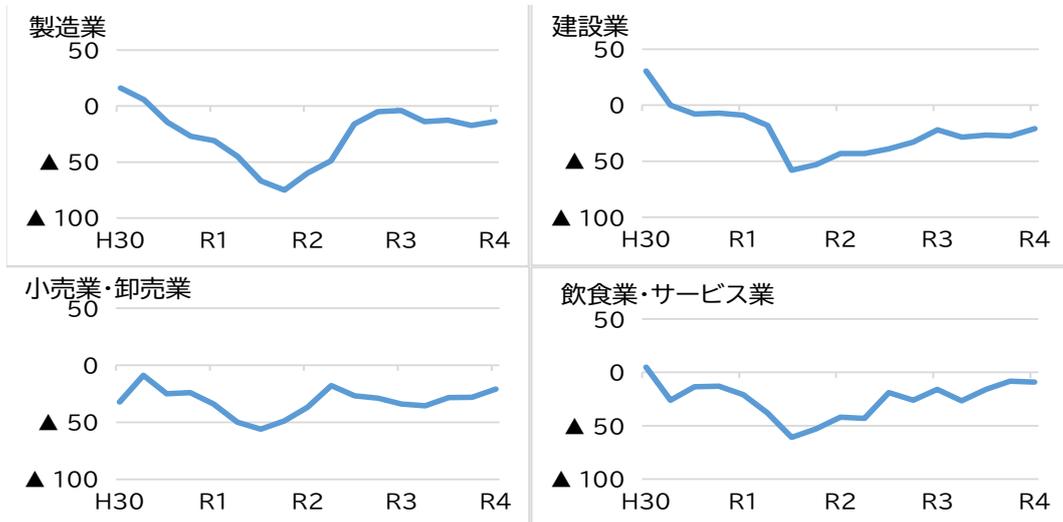
全産業の売上DIは、前期▲17から▲14(前期差3ポイント増)と、微増であった。  
 産業別にみると、製造業は▲14、建設業は▲21で、1年ほど売上の改善が停滞している。  
 小売業・卸売業は▲21、飲食業・サービス業は▲9で、少しずつ売上の改善が進んでいる。  
 全国と当市を比較すると、全業種でほぼ同様な売上DIとなり差がなくなっている。

(令和元年10-12月期～令和4年10-12月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「売上額DI」を使用。  
 ※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

参考) 売上DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



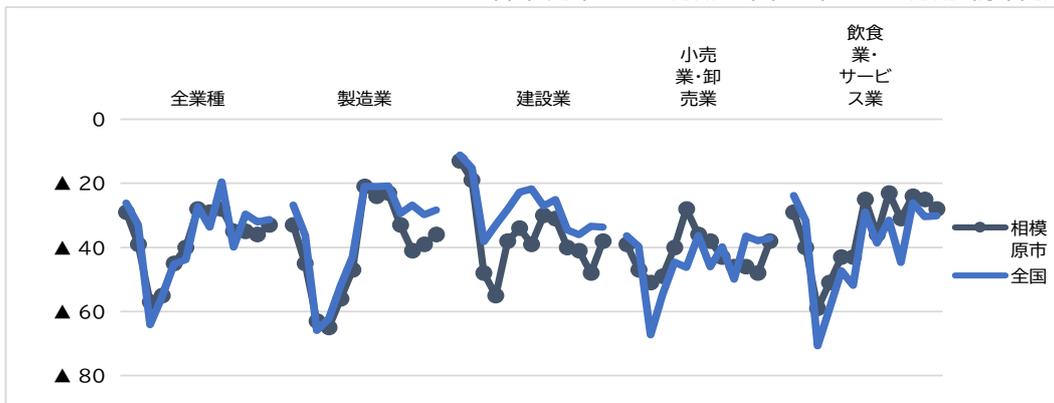
**採算DI(前年同期比)の推移**

全産業の採算DIは、▲33(前期差3ポイント増)と、1年ほど停滞が続いている。  
 産業別にみると、製造業が▲36で小幅の改善が続く。建設業は▲38、小売業・卸売業は▲38で、いずれも前期の悪化から今期は改善に転じた。飲食業・サービス業は▲28でほぼ変わらなかった。

円安などの影響を受け採算性の悪化が続いていた飲食業・サービス業以外の業種で、コスト上昇がひと段落した模様である。

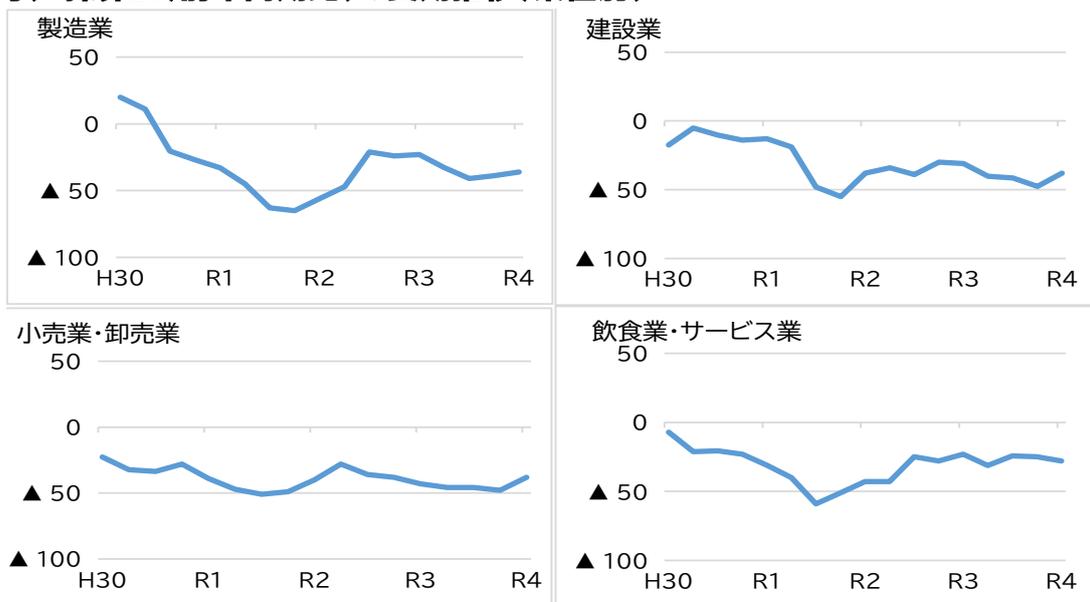
産業別に今期の数値を全国値と比較すると、製造業では全国よりDI値が低く、回復が遅れているが、それ以外の業種はほぼ全国並みである。

(令和元年10-12月期～令和4年10-12月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用  
 ※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用  
 ※採算DIについて、当所では「採算」、中小企業庁は「経常利益」を質問項目としている

**参考) 採算DI(前年同期比)の長期推移(業種別)**

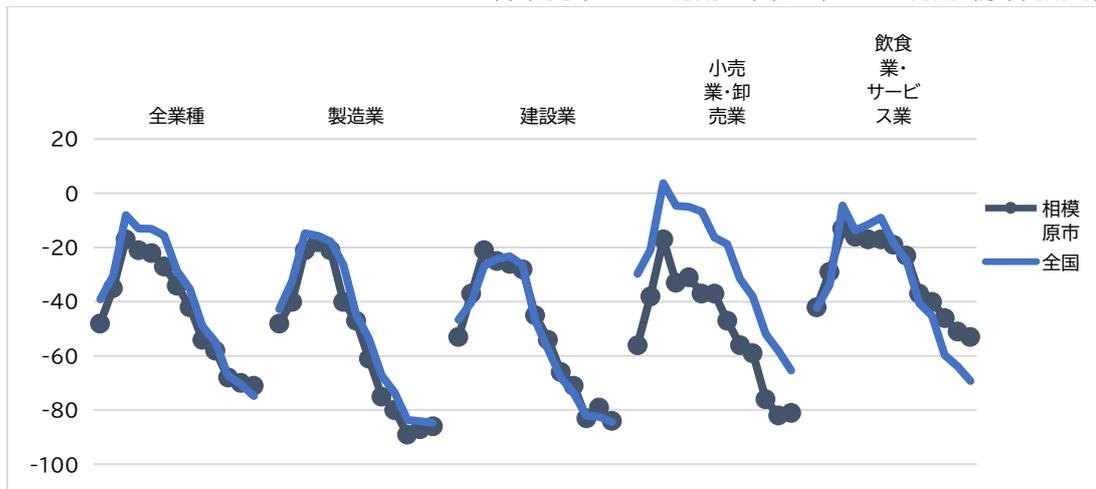


## 仕入単価DIの推移

### 仕入単価DI(前年同期比)の推移

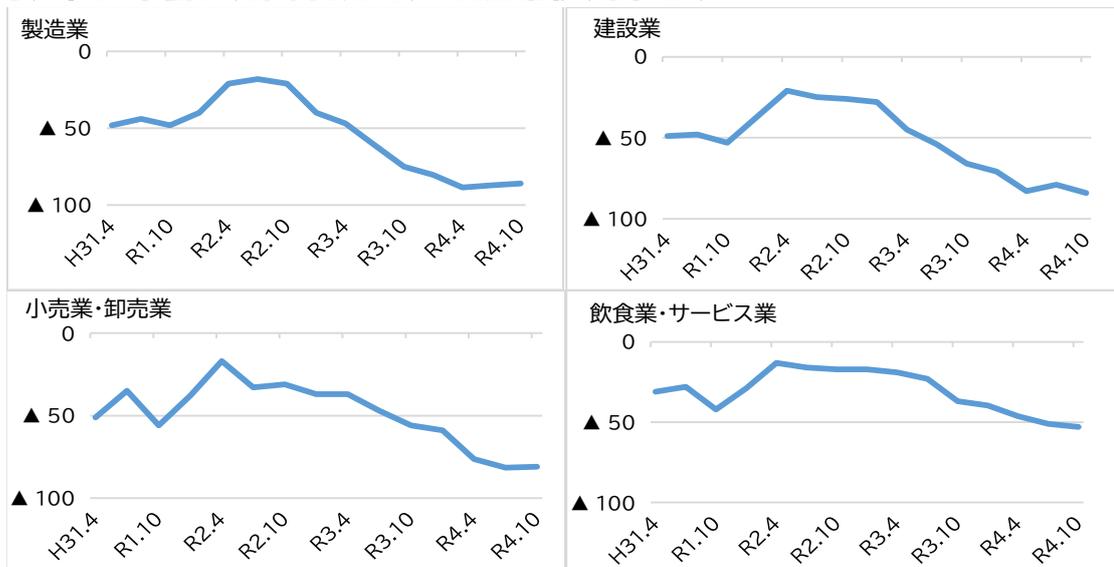
全産業の仕入単価DIは▲71(前期差1ポイント減)で、ほぼ変動がなかった。  
 産業別にみると、製造業が▲86、建設業は▲84、小売業・卸売業が▲81、飲食業・サービス業が▲53であった。前期に続き、製造業・建設業は燃料費と原材料費の高騰により直接的な影響を受け、それにより商品価格を値上げする主要メーカーの影響を受け小売業・卸売業も深刻な仕入れ単価の上昇に悩んでいる状況である。飲食業・サービス業においては比較的影響は少ないが、なお大半の事業者は仕入れ価格高騰の影響を受けている。全国との比較においては、小売業・卸売業においては全国より低く、飲食業・サービス業においては全国より高くなっている。

(令和元年10-12月期～令和4年10-12月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「原材料・商品仕入単価DI」を使用。  
 ※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用  
 ※仕入単価DIについて、当所では「DI=下落-上昇、中小企業庁は「上昇-低下」で算出。  
 比較にあたっては、全国値の符号を反転させている。

### 参考) 仕入単価DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



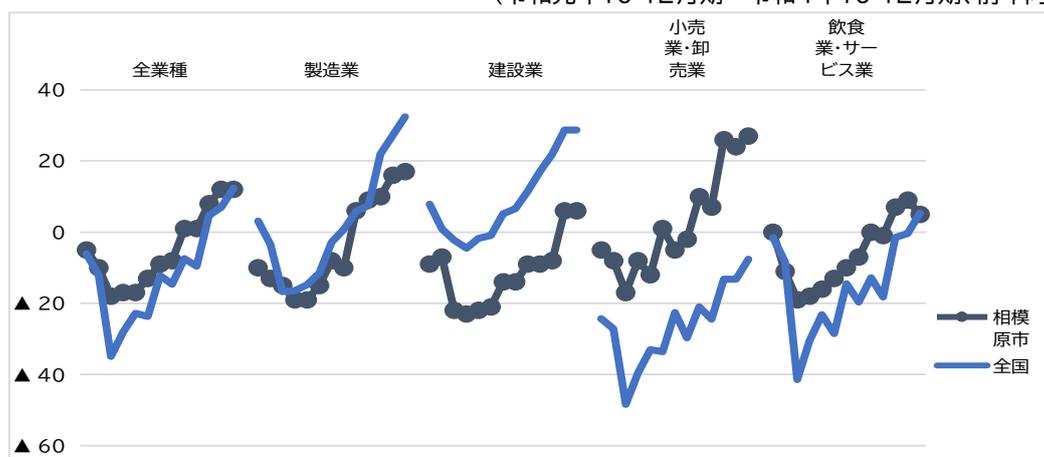
## 販売単価DIの推移

### 販売単価DI(前年同期比)の推移

全産業の販売単価DIは、12(前期差±0ポイント)で前期から変わらなかった。  
 産業別にみると、製造業は17、建設業は6、小売業・卸売業が27、飲食業・サービス業が5であった。特に小売業・卸売業でDIが高く、店先での物価の値上がりを反映している。販売単価DIは過去2年間上昇が続いたが、ようやく上げ止まったようである。

全国値と比較すると、製造業と建設業は全国よりも低い水準が続き、小売業・卸売業は全国より大幅に販売単価DIが高い状況が続く。

(令和元年10-12月期～令和4年10-12月期、前年同期比)

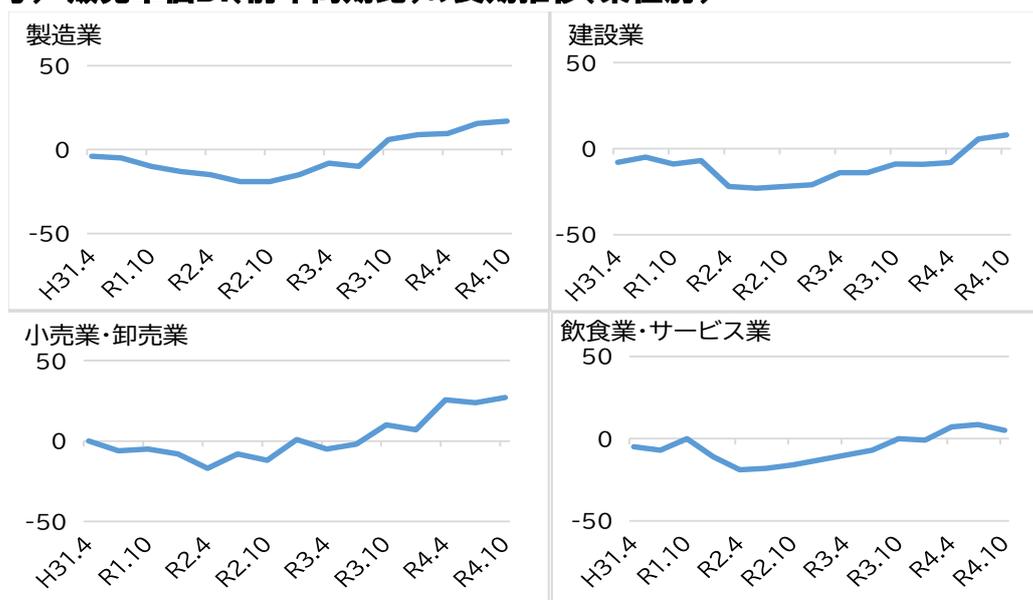


※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「販売単価・客単価DI」を使用。

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※建設業については、全国値は日本商工会議所「早期景気観測商工会議所LOBO/建設業令和4年6月」分類の値を使用

### 参考) 販売単価DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



## 従業員DIの推移

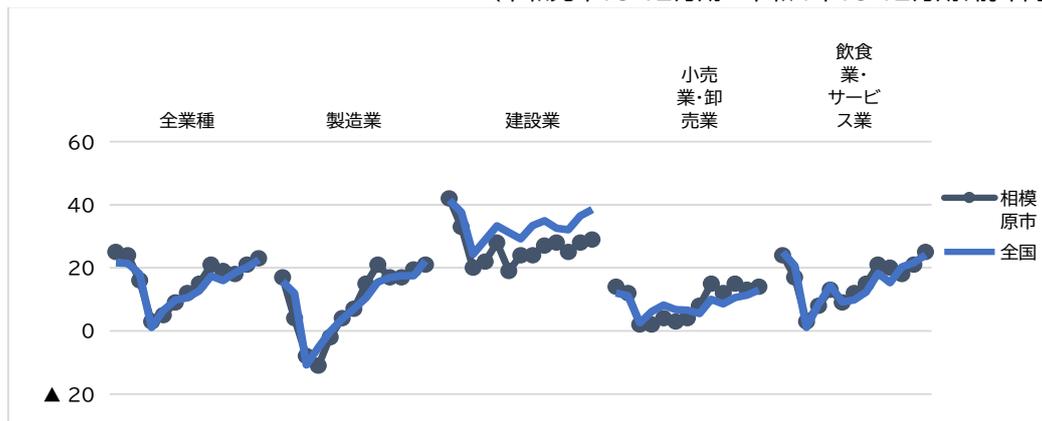
### 従業員DI(前年同期比)の推移

全産業の従業員DIは、23(前期差2ポイント増)で、前期並みであった。

産業別では、製造業が21、建設業は29、小売業・卸売業が14、飲食業・サービス業は25であった。特に飲食業・サービス業での上昇傾向はまだ続いており、客足が急速に戻った飲食店などでの人手不足の状況が現れている。

産業別に今期の数値を全国値と比較すると、いずれの業種も全国と同様なDI値の傾向となっている。

(令和元年10-12月期～令和4年10-12月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「従業員数過不足DI」を使用。

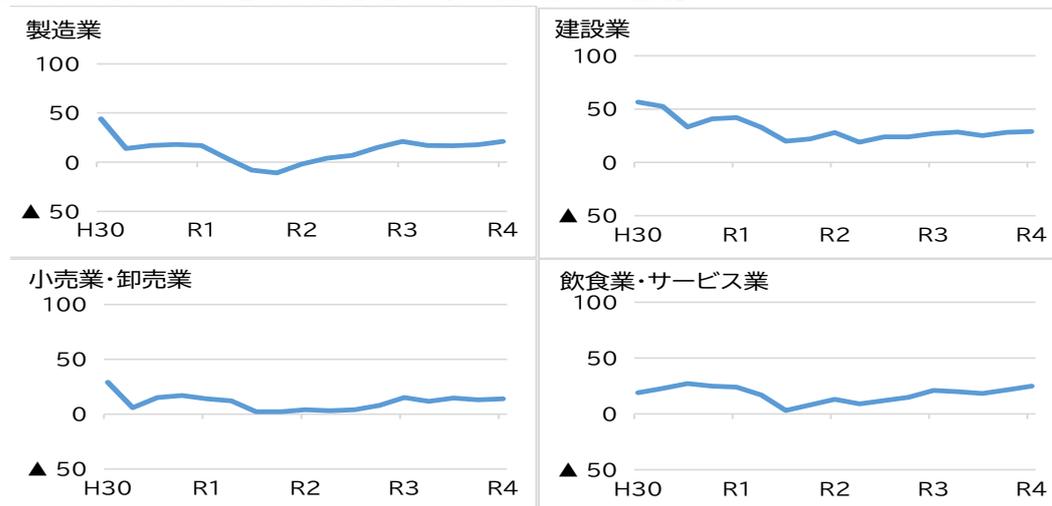
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※従業員DIについて、当所では「前年同期比」、中小企業庁は「今期の水準(過去との比較ではない)」を調査

※従業員DIについて、当所では「DI=不足-過剰、中小企業庁は「過剰-不足」で算出。

比較にあたっては、全国値の符号を反転させている。

### 参考) 従業員DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



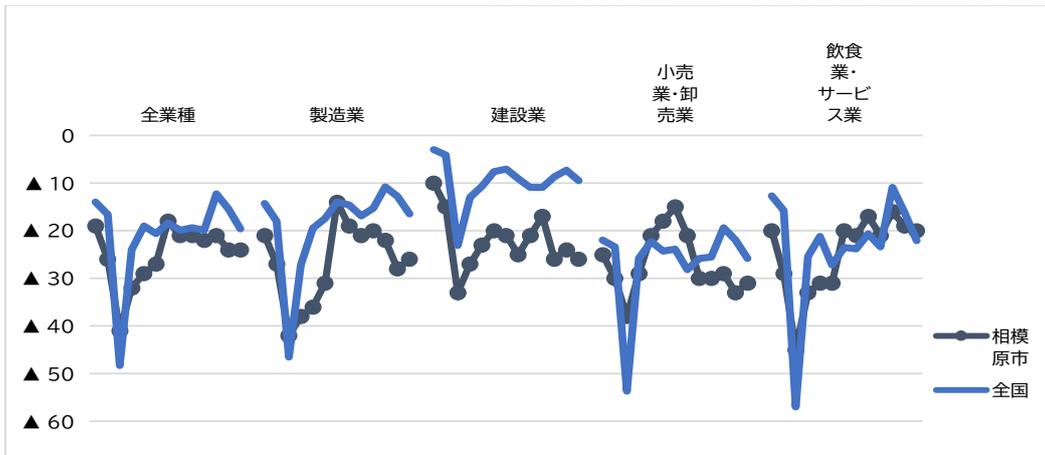
## 資金繰りDIの推移

### 資金繰りDI(前年同期比)の推移

全産業の資金繰りDIは、▲24(前期差±0ポイント)と前期から変わらなかった。  
産業別にみると、製造業は▲26、建設業は▲26、小売業・卸売業が▲31、飲食業・サービス業は▲20であった。前期、仕入れ単価上昇の影響を受け悪化した製造業も下げ止まっているようである。

産業別に当市の今期の数値を全国値と比較すると、飲食業・サービス業を除いた全業種において当市のほうが資金繰りの状況が悪くなっている。

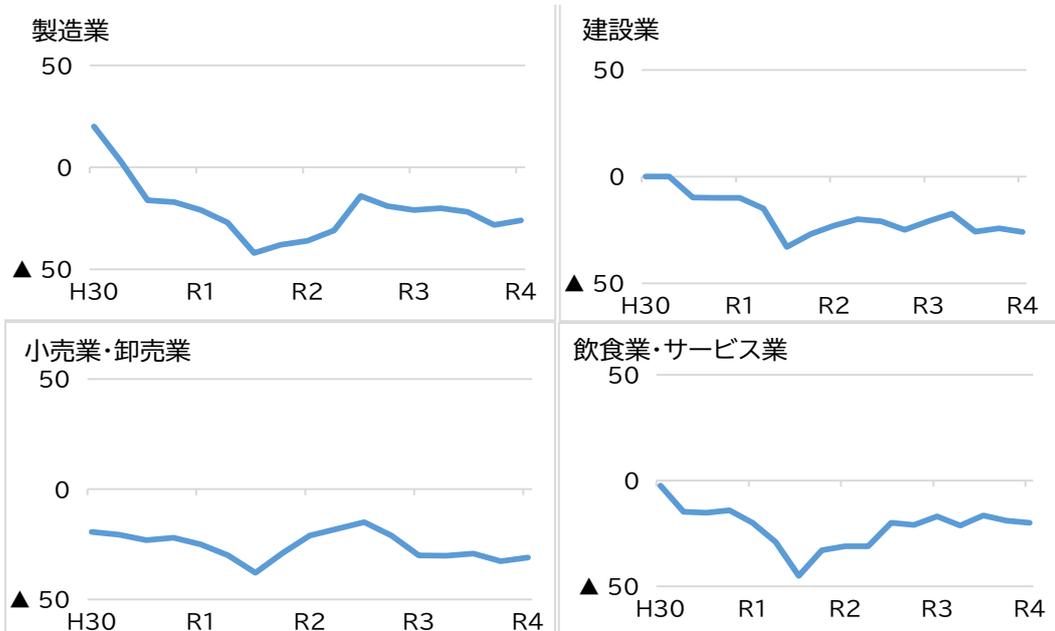
(令和元年10-12月期～令和4年10-12月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

### 参考) 資金繰りDI(前年同期比)の長期推移(業種別)



集計表(景気観測調査)

		今期(R4.10~R4.12)				次期見通し(R5.1~R5.3)				
		売上:増加 採算:資金、総 合:好転 仕入:下落 販売:上昇 従業員:不足	不変	売上:減少 採算:資金、総 合:悪化 仕入:上昇 販売:下落 従業員:過剰	合計/DI値	売上:増加 採算:資金、総 合:好転 仕入:下落 販売:上昇 従業員:不足	不変	売上:減少 採算:資金、総 合:悪化 仕入:上昇 販売:下落 従業員:過剰	合計/DI値	
製造業	売上	カプル数	65	77	98	240	53	103	84	240
		構成比	27	32	41	▲14	22	43	35	▲13
	採算	カプル数	36	81	123	240	37	101	102	240
		構成比	15	34	51	▲36	15	42	43	▲27
	仕入単価	カプル数	1	31	208	240	3	67	170	240
		構成比	0	13	87	▲86	1	28	71	▲70
	販売単価	カプル数	68	145	27	240	44	163	33	240
		構成比	28	60	11	17	18	68	14	5
	従業員	カプル数	57	177	6	240	50	184	6	240
		構成比	24	74	3	21	21	77	3	18
資金繰り	カプル数	12	154	74	240	16	163	61	240	
	構成比	5	64	31	▲26	7	68	25	▲19	
業況	カプル数	24	107	109	240	27	116	97	240	
	構成比	10	45	45	▲35	11	48	40	▲29	
建設業	売上	カプル数	40	69	79	188	30	87	71	188
		構成比	21	37	42	▲21	16	46	38	▲22
	採算	カプル数	15	86	87	188	16	92	80	188
		構成比	8	46	46	▲38	9	49	43	▲34
	仕入単価	カプル数	2	26	160	188	2	45	141	188
		構成比	1	14	85	▲84	1	24	75	▲74
	販売単価	カプル数	41	118	29	188	31	128	29	188
		構成比	22	63	15	6	16	68	15	1
	従業員	カプル数	58	127	3	188	53	131	4	188
		構成比	31	68	2	29	28	70	2	26
資金繰り	カプル数	4	131	53	188	3	136	49	188	
	構成比	2	70	28	▲26	2	72	26	▲24	
業況	カプル数	12	94	82	188	10	105	73	188	
	構成比	6	50	44	▲37	5	56	39	▲34	
小売業・卸売業	売上	カプル数	38	55	73	166	22	78	66	166
		構成比	23	33	44	▲21	13	47	40	▲27
	採算	カプル数	21	61	84	166	15	77	74	166
		構成比	13	37	51	▲38	9	46	45	▲36
	仕入単価	カプル数	3	26	137	166	1	52	113	166
		構成比	2	16	83	▲81	1	31	68	▲67
	販売単価	カプル数	76	59	31	166	57	84	25	166
		構成比	46	36	19	27	34	51	15	19
	従業員	カプル数	27	136	3	166	22	142	2	166
		構成比	16	82	2	14	13	86	1	12
資金繰り	カプル数	6	103	57	166	5	115	46	166	
	構成比	4	62	34	▲31	3	69	28	▲25	
業況	カプル数	18	73	75	166	8	90	68	166	
	構成比	11	44	45	▲34	5	54	41	▲36	
飲食業・サービス業	売上	カプル数	105	162	142	409	75	216	118	409
		構成比	26	40	35	▲9	18	53	29	▲11
	採算	カプル数	45	206	158	409	47	228	134	409
		構成比	11	50	39	▲28	11	56	33	▲21
	仕入単価	カプル数	2	187	220	409	4	214	191	409
		構成比	0	46	54	▲53	1	52	47	▲46
	販売単価	カプル数	58	312	39	409	48	314	47	409
		構成比	14	76	10	5	12	77	11	0
	従業員	カプル数	108	294	7	409	106	296	7	409
		構成比	26	72	2	25	26	72	2	24
資金繰り	カプル数	21	286	102	409	16	305	88	409	
	構成比	5	70	25	▲20	4	75	22	▲18	
業況	カプル数	40	225	144	409	38	244	127	409	
	構成比	10	55	35	▲25	9	60	31	▲22	
全業種 総合	売上	カプル数	248	363	392	1003	180	484	339	1003
		構成比	25	36	39	▲14	18	48	34	▲16
	採算	カプル数	117	434	452	1003	115	498	390	1003
		構成比	12	43	45	▲33	11	50	39	▲27
	仕入単価	カプル数	8	270	725	1003	10	378	615	1003
		構成比	1	27	72	▲71	1	38	61	▲60
	販売単価	カプル数	243	634	126	1003	180	689	134	1003
		構成比	24	63	13	12	18	69	13	5
	従業員	カプル数	250	734	19	1003	231	753	19	1003
		構成比	25	73	2	23	23	75	2	21
資金繰り	カプル数	43	674	286	1003	40	719	244	1003	
	構成比	4	67	29	▲24	4	72	24	▲20	
業況	カプル数	94	499	410	1003	83	555	365	1003	
	構成比	9	50	41	▲32	8	55	36	▲28	

## 集計表(トピックス)

製造業
半導体不足による部品調達遅延・期待する人材採用が難しい。【製造業】
「材料費・エネルギー費の高騰」「半導体不足の長期化」「脱炭素・低炭素化の加速」。【産業用エンジン、発電用エンジン、発電セット、ターボチャージャー】
①部品・購入品の入手が困難。②部品・購入品の価格高騰。③材料費の価格高騰。【FA・メカトロニクス設計・製造】
9月までは比較的良好な売上及び利益であったが10月になり少し売上が停滞気味となっている。取引先の新規プロジェクトが1年延期になるなど、マイナス情報が多い。【粘着製品の企画、加工、販売】
お盆過ぎから急激に受注が低下した。1/3程度に減少している。【電子部品(水晶デバイス・センサー等)用ソケットの開発・製造・販売】
物価高騰による材料費の値上げ。【製品塗装及びめっき】
これまで問題なく調達できていた材料が急に入手困難になった。仕入価格が上がっている上に物が入ってこない。従って受注を受けても納入できない。客先はそれを見て注文を出さなくなってきており、ますます売上が落ちるスパイラルに陥っている。【電子回路基板製造】
コロナウイルスの売上下降から上昇に転じてきている。但し、円安による仕入れ価格が上がり、厳しい状況は変わらない。【製紐業、ヘアゴム、化粧雑貨、衣料雑貨】
コロナによる影響が大きく、この扱いをインフルエンザ並みにしてほしい。【プラスチック押出成形用引取機、切断機の製造販売及び修理等】
コロナの影響がまだまだ大きく売上がなかなか回復しない。【高速モータの製造・販売】
コロナ影響がまだ継続しており、売上への影響、仕入コストへの影響、物価上昇からの人件費高騰など調整事項は多岐に及ぶ。【ストレージ製品】
コロナ禍の中で特に仕事が少なくなったままです。【製造業】
コロナ対策があると思いますが、関係(協力)会社を廻ると世の中の報道以上に仕事がなく半休業が多い…。【真空・理科学機器の製造販売】
ゼロコロナにより売上不調。【製造業】
まだまだ上がってくる気配が無い。【鋁金、製缶】
もともと、多品種少量で営業していた為現状の景気に対応出来ていると思われるが、不景気が長引くと他社と同じく下落していくと思う。とにかく材料費(溶剤等)が高い。【工業製品塗装全般】
為替。【自動車アクセサリ製造販売 キャンピングカー製造販売】
為替変動、輸入品の供給不足等自社は勿論、大手得意先を含めた対応が計画的に取りにくい。人手不足が徐々に進んできており、事業拡大への足かせになりつつある。【自動車、建機部品製造】
一部取扱い製品の減少、取引先の事業計画が不透明な面があり、売上減少も見込んで予測を立てているが、人件費の上昇もあり対策を急いでいる状況です。【各種製品の加工、検査及び包装】
引合い、受注共に減少して経営は著しい。コロナ収束のせいか、年末にかけて引合いが増加、それに伴い資金繰りが苦しい。越せるかどうか？【製造業】
円安で仕入単価10%~20%UP。受注が減少。【不織布製品の企画、製造販売】
円安による採算悪化、原材料価格の上昇。【パッシブ除振台・アクティブ除振台・防振装置・各種防振ゴム・制振材・吸音材・除振工事・防振工事・制振工事・除振コンサルタント・振動測定及び解析】
円安による仕入コストの上昇が全てを悪化させている要因になっている。【通信機器の設計、製造(委託)、販売、通信機器のMOTOROLA製品の総代理店、オーディオ機器(SOULNOTEブランド)設計、製造(委託)、販売カラオケ機器(自社ブランド、OEM)設計、製造(委託)、販売】
円安に伴う輸入価格の上昇。【通信用ケーブル及び周辺機器の製造・販売】
各メーカーの動きが鈍く、原材料費及び電気ガスの高騰で益々下請業者が厳しくなる。【試作自動車車体製造業】
客先の設備投資減少、部品単価上昇、調達困難。【電鉄変電所向け電気計測装置製造】
求人が厳しい。【ねじ・ボルト製造】
景気の上昇が数年なく経営状態の悪化が続いている現況です。【合成樹脂切削加工業】

経費の増加。売価は同じで赤字。【各種部品加工】
原材料、仕入単価の上昇が続くと販売価格に転嫁できないので、景気は悪化すると感じます。【鋼材切断・加工】
原材料、電気代等の値上り。【プラスチック加工】
原材料等モノの価格が上昇している中、売上価格の見直しを取引先の大企業に認めてもらえない。様々な資料を用意して交渉に当たったがゴネられ、最終的には「全てのコストの情報(請求書や、人件費については給与明細)を提出しろ」とまで言われた。全てのコストを明らかにしてしまえば「利益率を下げろ」「給与を下げろ」と言われることは明らかのため、価格改定を諦めざるをえなかった。このような要求に対して下請法等で何か対策していただけないか、切に希望している。【ショットブラストおよび下塗り塗装】
原材料費、エネルギーコストの高騰、慢性的な人員不足。【医薬部外品、化粧品、医療機器の製】
原材料費含めた資材などの仕入代金が軒並み上昇している中、満足のいく価格転嫁ができないことから利益率が下がらざるを得ないことについて憂慮している。また、人件費が上昇し、なおかつアルバイトパート人員の確保が難しくなり、オペレーション自体の見直しが必要だと考えている。【自家製餃子の製造、販売、飲食店経営】
雇用確保及び人手不足。【機械販売及び開発】
光熱費のコスト増が重い。【射出成形金型設計製作他プラスチック成形金型】
好調な会社と不調な会社の二極化、エネルギー高騰による収益の減少、法令条例の改正に伴う、対策の遅れ。【紙製品化成品】
高賃金の求人につながる傾向があり、求人を出しても若年層の求職者の反応がなく、従業員の高齢化、若年層の不足が今後も増加する懸念。【ワイヤーハーネス加工・販売】
今後も経営困難が続くと思われる。【精密部品加工業】
今年の8月のお盆過ぎから急激に受注が低下し、今も11月1日も景気低迷のままが続いている。【電子部品(水晶デバイス、センサー等)用ソケットの開発・製造・販売。】
最近、公取違反ギリギリの発注の仕方が多くなってきている。【輸送機器用部品製造】
材料の高騰、円安による仕入単価の上昇。【ヨットのマスト、リギン設計製造他】
材料の高騰、半導体不足が解消される見通しがなく、先行は不透明。【自動機械の設計・製造・販売】
材料高騰しているが、販売価格に転嫁できない。【ゴムパッキン加工】
材料仕入単価の上昇他、経費(電力料等)の値上りで厳しい。【自動車用オイル、燃料フィルター部品】
材料代の高騰。【金属加工】
材料単価だけではなく、処理費用も上昇している。【精密板金加工】
材料値上に対して、受注先からの受注の減少。【印刷業】
材料等の仕入れ価格は高騰しているが、思うように価格転嫁出来ない。【精密板金】
材料費、光熱費の上昇、協力工場の高齢化、インボイス制度導入。【治具製作設計、部品製作】
材料費の高騰。【シャフト・ベアリングケース・ブランケット等】
材料費の高騰する速度が早い。【省力化機器の設計製造】
材料費等の仕入れ単価の上昇。【金属銘板及びステッカー、シール製造】
仕事の絶対量が少なく、苦しい中でも技術の練磨は常に行っていますが、折角醸成した技術を使用するチャンスがありません。この状態が長く続けば技術の上達も途中で折れてしまう可能性があります。【精密金属部品の試作】
仕入・販売単価の改定について。【金属表面処理加工業】
仕入れの価格上昇と顧客の要望が合わないためか、承認が遅くなること多く、納期が短縮されている。【印刷・広告物に付随する一切の業務】
仕入れ価格高騰による売上及び利益の減少、設備機械の老朽化による修繕対応の増加、資金繰りが思ったように進まない。【軟質ウレタンフォーム加工及びウレタンチップフォーム製造加工】
仕入れ単価の上昇により利益率が下がっている。売値に転嫁する動きをとっているがまだ全てに転嫁できていない状況。【建築目地材】

仕入材料費が高くなり、収益低下。【光学ガラス加工業(受託加工)】
仕入単価の上昇。【ウレタン加工】
仕入単価値上げ。【バルブ製造業】
仕入部品の上昇と部品の入荷など。【制御盤の製作・ケーブル加工】
市場が不安定。【金属部品】
市場のアイテム不足(制御機器・電装部品)が一向に収まる気配が見えない。納期(検収)が遅れる事が多くなっている。【省力装置・溶接組立治具の設計製作】
自動車メーカーの部品不足。【切削工具製造及び爪研磨】
主原料の紙管原紙の値上げと円安による輸入シリカゲルの高騰。【角型紙管製乾燥剤加工】
受注がない為、資金不足が続いている。【省力機・機械加工】
受注が少なく、動きがありません。【金属加工】
受注量の減少、取引先大手の値上げ渋り、半導体関係の取引先の好調、人手不足。【金属熱処理】
受注量の減少傾向にある。【建設器具機械及び基礎機械器具製造修理】
受注量の低迷。【建設器具機械及び基礎機械器具製造修理】
受発注の状況。【印刷、シール印刷、シルク印刷】
食材の値上りに加え、最低賃金の大幅な上昇、零細企業経営者は厳しい状況である。【弁当・惣菜】
新卒社員の雇用確保が難しくなっている。【臨床検査薬の開発・製造・販売】
世界情勢の不安定。【油圧機器】
製造は外注している為、メーカーではありますが設備投資はありません。【小型モーター用アンプの製造と販売】
製品需要は増加しているが相変わらず部品調達の不安定性が続いていて先読みが難しい。【産業用モータ制御装置の製造販売】
製品単価には転嫁しづらい油脂消耗品価格上昇、光熱費の上昇。【上水道継手・自動車部品の施盤加工】
前年同期比で横ばい傾向を推移しており、経済の活性化を期待する。【キッチン、洗面台カウンター等の人工大理石による家具装備品製造業】
全ての物が高騰。【精密板金部品等の製作】
全般に物価高。【塗装業】
相変わらずの材料費等の値上げが販売単価に転換しきれない。【金属・樹脂部品機械加工】
中長期の計画が立てづらい。【食品】
電気代の大幅値上げ。【金属部品の加工】
電気代高騰の影響大。【金属製品加工】
電気部品、半導体部品の不足で、納期が見えなく、価格も上昇している。客先も先行きが見えなく、なかなか注文書が発行されない。【超音波バリ取り洗浄装置の製造販売】"
電気部品不足が解消されない為、受注ができない状態が続いている。緊急対応策を希望します。【超音波洗浄装置】"
電子部品不足により受注できない。【理化学機器製造販売、組立、配線、ハーネス加工】
電子部品類の入手が相変わらず厳しい。【1)電子応用装置の設計・製造、2)防犯機器の販売】
電力、消耗品の高騰に依る売上げの圧迫。【自動車プレス部品】
電力料金含めた物価上昇。【電力機器、配電機器、免振、制振、制音デバイス、精密デバイス】
電力料金上昇による経費の増加。【金属熱処理】
特になし。【金属プレス加工】
特に食用油の値段上昇が大きすぎる。また上がると問屋の話。ここ1年で倍に。不安です。【豆腐製造業】
日野自動車株式会社の売上が半分位をしめていたので、売上が減少した。資金繰りの面でも大変。【トラック架装業】
売上はわずかだが増加するが仕入(電気・ガス)の増加により採算の好転はムズカシイ。【金属塗装業】

<b>売上不振。【印刷業】</b>
半導体の活発な設備投資に支えられ、当社業績は好調であったが、ここに来て、半導体が供給過剰となり、半導体メーカーが設備投資を縮小する動きとなった。現状は注残を抱えているものの、近い将来には業績が低迷することが予想される。【電子部品製造販売】
半導体業界の動向に左右される為、ここに至り踊り場状況。材料費などの上昇が続いており、電気料金も圧迫要因。【精密板金の製造業】
半導体不足と仕入・加工単価の増加。【工業用自動機の開発・製造・販売】
品不足(ICなど)の影響で顧客の業務が進まず、当社の受注に影響が出ている。【雷対策機器】
不況の要因が多数あり、先が読めないのが現状外的要因に対してどう対応していくのかが、今後の重要なポイントとなる。【金属加工、自動車部品、建機部品、半導体装置の部品】
部材調達難の継続が課題。【光製品及び画像計測装置の開発・設計・製造及び販売】
部材入荷遅れによる納入時期の遅れなど。【精密・一般板金加工業】
部品が手に入りにくい。【精密機械の製造】
部品の入手が出来ない。(特に電子部品)。【雷対策製品】

<b>建設業</b>
競争激化等による受注価格の減少が心配＝収益低下・仕事量の増加による人手不足・高齢化が心配。【厨房設備、外食産業店舗内の厨房に関する機器入替・給排水・電気等の工事】
オミクロン株の影響もあり、仕事量、雇用が減少。【測量、大工工事業】
お得意様からの発注の減少。【建築塗装、防水工事】
コロナ、ウクライナの戦争等、投資動向に影響を与えていること、そういった影響が生活や企業活動に悪影響を及ぼしていること。【解体工事業】
コロナ感染が徐々に増えてきたため病院・老人ホームでの機器更新作業がたびたび中断、人件費がかさむ。【ナースコール設備機器、電話設備機器、ITV関連】
過去に例のない物価上昇への対応が厳しい。【土木工事・建築工事他】
企業による設備投資により仕事は増えてきていますが、人手不足により売上げの増加にはつながっていない。【建設業】
企業の設備投資が少ないことと、個人消費が落ちると感じている事。【工場、アパート、住宅、リフォーム】
企業の設備投資と働き方改革、コロナ、物価上昇で消費マインドの低下が気になる。【工場、住宅、事務所、リフォーム】
期待していた工事がなくなった。【管工事】
休みが不定により従業員が集まらない。【工場・テナントの間仕切り工事】
継続的に人員不足。高齢化が著しい。【建設道路舗装工事業】
建設業においては令和4年12月期までの仕事量は増加、収益率は若干低下、仕事量増加に伴い、従業員を2名増。景気は上昇傾向だが賃金、仕入単価の上昇があり、収益上昇にはならない。介護事業においては、引き続き人員不足。【クリーンルーム居宅介護支援】
原材料の高騰、人員の不足。【塗装・リフォーム】
現状維持であれば従業員充足も、成長を視野に入れた場合人員不足、市場からの調達は難しい状況が続いている。【一般土木建築工事業】
現状維持を前提にすれば充足も、成長を目指すためには従業員が不足、転職市場からの調達は難しい状態が続いている。【一般土木建築業】
公共工事の減少。【管工事業】
公共工事の行き先が不明。長期計画が不鮮明。【管工事】
公共工事及び民間工事共に案件が減少しており、結果受注も減少傾向にある。【土木建設施工会社】
工事受注の減少、材料代の高騰、工事単価の低迷。【建築塗装】
材料の高騰、納期の大幅遅延。【電気工事業(自家用電気工作物の保守・点検・電気工作物の工事)】

材料仕入単価の上昇。【鉄骨建築工事】
仕入れ単価の上昇により、受注単価を上昇させなければならないが、見積り提出後、高いという理由で受注に至らないことが多くなった。【リフォーム工事】
仕入価格の上昇、納期の遅れ。【一般建設業】
仕入単価、外注費の値上げ。【住宅リフォーム】
仕入単価が上昇して、採算が悪化してきている。人材も高齢化・不足と採用が出来ていない状況。【土木工事業】
仕入単価の上昇。【建設業】
仕入単価の上昇。【緑地管理】
資材価格の高騰及び販売価格不変、人材不足。【電気設備工事】
資材高騰。【空調設備工事】
資材高騰。【住宅事業施設】
資材等の高騰が痛い。【電気工事業】
若い人材の不足。【電気工事】
主要材料費の価格上昇に対応しての受注単価改定が追いついてない状況がしばらく続くと思われる。【外構工事業】
受注の減少(大きく)。【外構工事】
受注先の好調、不調が極端に現れているため先が読めない状態が続いている。仕入れ単価や諸経費が上昇しているため中長期的には収益率が下がると思う。【屋外広告業(看板製作・設置)電気工事】
諸経費の増加。【タイル工事】
商品の遅れ(生産、物流等)の為、商品の納期不明で客先との交渉が進められないので、見積りさえ提出できない。【管工事業】
消耗品の価格上昇。【コンクリート圧送業】
人材確保。【電気通信】
人材不足、物価上昇。【緑地の維持管理及び関連資材の販売】
人材募集の反応が悪い。【電気工事業】
人手不足。【解体工事業、産業廃棄物処理業】
政府建設投資は微増。民間建設投資は、企業の設備投資意欲の回復等により、コロナ禍で需要が拡大した倉庫・物流施設だけでなく、工場においても投資が堅調に推移。一方で、資機材価格が引き続き上昇しており、競争環境も厳しい状況が継続。【土木、建築工事請負事業・不動産事業】
設備機器の欠品の影響により受注から納品までの期間が延びています。【管工事】
法人税金が高い。社会保険料負担が多すぎる。規制が多い。【電気工事】
燃料費、電気代が上昇して経費が上昇しているが、販売価格にすぐに反映できない状況なので、収益率が低下している。建築現場での従業員数(作業員数)が業界全体でかなり不足している状況で、工程が予定どおり進まない状況。【鉄筋工事、鉄筋材料販売】
売り上げが減っていること。【エクステリアの工事、販売】
売上不振。【外構工事】
必要な人材採用が困難である。【総合建設業】
不況到来の予測。【カーテン】
物価の上昇に収入が追いつかず結果、業績が悪化。【道路工事】
物価高、材料不足による影響が大きい。【中高層共同住宅建築】
物価高騰による利益率低下、従業員の質の低下。【一般住宅の設計施工】
<b>小売業・卸売業</b>
コストプッシュの影響から光熱費・運搬費が上昇。また、先行きが不透明【地方卸売市場(青果)の運営】
「客数の減」「競争激化」。【スーパーマーケット】
「原材料価格の高騰」「光熱費の高騰」「最低賃金引き上げに伴うコストアップ」。【食料品】

5年10月から「インボイス」が報じられている。自営業者はますます苦しくなる。【小売業】
イベント用品を扱っているため、一日も早い収束を願います。【旗類、イベント用品販売】
かながわPay、キャッシュバックキャンペーンの効果があつた。【寝具用品全般、羽毛ふとんのリフォーム、綿ふとんの打ち直し、仕立】
かながわPay、サンキューキャッシュバックなどの反応が良い。【宝飾品】
かながわPayの〆切り日に、駆け込みが多数あつた。【自転車、スポーツバイク販売・修理】
コロナの後遺症は未だに不変。次年度は更なる円安、仕入れ単価上昇等々で明るい見通し無し。【特殊用途光学レンズ輸出】
コロナ禍、景気は若干持ち直し傾向になったがウクライナ情勢から諸物価の上昇、円安、値上げ等後半徐々に影響が出てきた。【メガネ・コンタクトレンズ・補聴器の販売】
コロナ禍が終焉を迎えつつあるものの、物価の高騰の影響が消費が進んでいる様子が感じられず、また以前の税込減少が原因か官公庁の物件も極小となっており、売り上げがかなり減少している状況です。【業務用厨房機器類】
コロナ禍によって営業活動に制限がある。【下着、化粧品、健康食品】
サンキューキャッシュバックキャンペーンの影響が出て11月は売上増加。その反動が12月に出ないか心配。【衣料品小売業】
サンキューキャンペーン、かながわPayはありがたいキャンペーンでしたが、カード決済やQR決済は、手数料がかかり、入金が遅い為、資金繰りが大変でした。【オーダーカーテン、カーペット、インテリア小物】
スタッフ不足。【化粧品】
どこもいいことを聞かない、周りの給与の少なさ。【お茶、のり、しいたけ、コーヒー】
ネット販売等、キャッシュレス化による手数料等の経費の発生が多い。【小売業】
ポイント還元やネット利用などお得なことを優先する傾向にあり、中小企業としては、対応できる(かなPayや39キャンペーン)の時は良いが、通常は苦戦しています。【化粧品】
まだまだ景気はよくなる。【リドンブランドの販売、コンサルティング、不動産投資】
運送費用の値上げが影響。【建設機械、輸出版売】
円安。【卸売業】
円安が止まらない。【食肉輸入卸】
円安が深刻。【衣類のインターネット通販】
円安と経費増。【小売業】
円安による仕入高の高騰。【LPガス販売】
円安による仕入単価の上昇などの影響で競争力の低下。【業務用アミューズメント機器の設計／電子・電気部品の輸入販売／電子黒板の輸入販売】
円安の影響大。【自動車及び関連部品販売・修理】
円安の問題点。【芝刈機の販売・修理】
円高、燃費。【LPガス、灯油、リフォーム】
価格改定が毎月の様にあるが、ユーザーが安定供給が最優先となり値上げは全て改定されています。今までにはなかった現象です。【卸売業】
価格改定の駆け込み需要は思ったより多かった。【住宅設備機器卸売業】
海外の景気も下がっていると思う。【中古自動車輸出】
各品目に於ける受注個数(数量)の減少。【ワイヤーロープ関連、建設機械部品等】
季節感が無い。【酒、ワイン、たばこ、飲料】
近隣に競合店が増えている。【処方箋調剤、OTC、化粧品】
経費(電気・ガス・水道)の値上げ、仕入値の値上りなど。【小売業】
原材料の不足、高騰・輸送費の高騰・人件費の高騰。【文具事務用品】
個人消費が減少して逆に仕入値が上がり、そのまま商品転嫁できないので辛い！【パン製造販売】
好調であった今年前半と比較すると、売上は落ち着いてきている。円高、ウクライナ情勢による資源、原料が高騰しており今後は仕入原価、諸経費の増加が予想される。【玉葱皮茶など】

今のお客様は品物の良い悪いにかかわらず大型店で何でも買い物を済ませるので個人のお店はだんだんと閉店していくのが多いので悲しいです。【生花鉢】
最低賃金値上り増加。【コンビニ】
仕入れ単価上昇、節約志向により使用量減少。【ガス販売】
仕入価格の上昇。【小売業】
仕入価格の上昇が止まらないうえに、販売価格への転嫁が追い付いていない状態。販売価格に転嫁しても、それが原因の売上の低下にならないかが心配。【空気圧機器卸売業(一部製造)】
仕入高の大幅な上昇。【弁当、総菜等製造販売】
仕入単価、経費すべてが上昇のため、利益額が減少。【和菓子製造小売】
仕入単価が著しく上昇し、個人消費が鈍化しているので、収益率の低下は避けられない。【地場産品・物産品】
仕入単価の上昇。【酒、たばこ、食品、飲料、雑貨】
仕入等の値上。【九州特産物の販売(小売)】
仕入物の値上り。【医療用具、衛生資材】
資金繰りの悪化、金利の上昇の不安。【機械工具販売】
主要メーカーの24時間風呂の販売終了(2021/3)による機器・消耗品の売上減少。【風呂ろ過装置・24時間風呂・マイクロバブル発生装置の販売・メンテ・関連消耗品の販売】
収益が上らないのに、人件費(最低賃金)が急激に上昇し、利益を圧迫している。【輸入自動車部品】
従業員の不安定さ(人数はいるが自分予定優先)コロナ以降。天気とお客様が行動の対応がとても早く動く感じがし、その場で必要なものは高くても購入するパターン多い。【食品、雑貨、酒、たばこ】
商品・資材の値上がりに伴う利益への圧迫。【生鮮食品・一般食品の販売を中心とするスーパーマーケット】
消費低迷。【自動車販売、車検・点検・钣金・保険】
新型コロナウイルス蔓延状況により客先・仕入先とのコミュニケーションが減少している。【省庁向け資材・器材の企画開発・販売・納入、インターネットショッピングモール内店舗運営】
新型コロナウイルス感染が落ち着きつつあるので、小売、卸売とも、改善傾向が見られます。賃金、原材料価格の上昇など、製造原価を押し上げる要素も多いので、今後の対応に苦慮するところもあります。【米菓製造販売】
新車が納まらないと、下取りの良質な中古車が少なくなる。【自転車買取・販売】
新車納車遅れにより、マーケットに商品が少なく、仕入れ困難。【建設機械、トラック買取販売】
神奈川payの10月までの売上は好調だった。【スポーツ用品】
水道光熱費の上昇が厳しすぎる。【総合小売業】
政府の無策感を強く感じます。【小売業】
相変わらずコロナ影響で来店客数減少。少子化による子供の減少。【玩具】
大企業中心の日本国地域経済は、小企業は自死を考える時代です。【米穀、酒類、食料品、雑貨】
大手青果卸売業者が閉鎖するなど、業界には厳しい四半期となっている。【生鮮青果物卸売】
天候の影響が大。【野菜、果物、農業用資材】
電気代の高騰。採用難。【総合小売業】
日本より先に、海外の景気が回復してきている。【健康食品】
買い控えが顕著にみえる。【管工機材及び住宅設備機器】
半導体不足等の影響などにより需要があるにもかかわらず、供給できない状況で売上減。【自動車(新車・中古車)の販売、修理、点検、車検】
販売につながる仕入機械が入らない。大手流通が滞っている為。【農業機械】
不景気による販売ルート悪化等。【建設・建築・外構材料販売】
部品不足による納期の長期化。【射出成形機及び周辺機器、金型等の卸売り及び自動機の製造販売】
物価上昇が止まらない。【ホームセンター】

物流テナント施設の増加。【物流機器・販売業】
輸入品の納入遅れ。【ポリ袋(ごみ袋)販売(品薄が続く中売上増加中)】

<b>飲食業・サービス業</b>
①仕入単価の上昇での値上げする事が出来ない事 ②宴会数が減少している事。【飲食店】
メーカーより製品納期遅延のため、日程が組めない。・部品価格上昇の為、見積もりOK出ず、整備の予定が立たない。【エアコンプレッサーの販売及び修理、メンテナンス業務】
「景気が悪い」。【web及び雑誌記事のライティング】
「高齢社会」の更なる進行、「認知症患者」の増加、高齢者へのサポート体制の強化。【行政書士】
10月から、お祭りや屋外イベントがコロナ以来もどって来た。【仮設トイレレンタル、販売】
①インボイス移行により下請け業者の為の利益確保、消費税分の負担増加を考慮した場合、年60万円程度の消費税増の可能性あり ②電子保存帳簿保存法の実施で事務機器の入れ替えが必要、60万円程度の設備入れ替えが必要 ③高齢で現場作業に支障が出ている。【分譲マンションの管理】
28年間も営業していましたが、経営悪化で閉店決定。【金券、趣味品、リサイクル、売買】
8、9月は大打撃うけました。10月になりコロナの影響が少し緩和して戻りつつありますが11月以降、再度また乾燥してコロナ感染率増えるか心配です。また円安の影響、全体的に食品、酒類は10月からの物価上昇による仕入れ単価上昇、メニュー値上げしなければならなくなりました。個人消費の低迷が感じます。良かった点:相模原サンキューキャンペーン、行政主体のサウザンロード商店街の独自の商品券、サウザンロードのお祭りが3年ぶりに復活など、地元関係になります。地域イベント、商品券やサンキューキャンペーンが効果あり集客ありました。【居酒屋】
9月中旬頃より問い合わせが減り、11月前半くらいまで売上の半分ほど。業種的に上下するので、とてつもなく売上の高い月もあれば少ない月もある。今年の9月～11月上旬はとくに少ない。売上としては10月までで去年を越えている。【遺品整理、不用品回収、草刈り・伐採・剪定、軽貨物運搬、便利屋業】
お客様に中国のロックダウンによる景気低迷の影響あり。特に、自動車やその工場設備の顧客は回復感がない。【プレス機械の自動化・システム化及び品質マネジメントシステムの支援】
お客様の消費単価と仕入単価上昇との意識に、ズレがあり採算面でかなり難しい所がある。【寿司、創作料理】
お客様高齢化により来店者少なくなった。【美容業】
お客様数の減少、電気代が上がった。売上は減っているものの人手不足。【お酒】
コロナウイルスの感染者が出ると営業日が減少してしまうためすぐに資金繰りが悪化方向へ向かってしまう。人件費、仕入単価の高騰が感じられる。【介護保険事業】
コロナがなかなかおさまらず客足が安定しない。【美容室】
コロナにより判断不能。【飲食業・宿泊業】
コロナの影響がひどく。【そば・うどん・和食】
コロナの影響が大きい。【不動産売買、賃貸管理】
コロナの影響によりお客の周期率が悪い。【理容・美容業】
コロナの感染状況によって、集会への参加意識が大きく増減してしまう。【冠婚葬祭、介護】
コロナの継続で、契約の延期が続いている。【不動産仲介】
コロナ影響から受注先が計画を取りやめ変更による事が続いて影響している。【建築設計・工事監理、都市計画施工に伴う家屋移転工作物の補償業務算定】
コロナ禍とウクライナ問題で新車の供給が不足し、いつもどおりにはいかない。【カーコーティング、カーフィルム、板金塗装】
コロナ禍のための海外との交流がまだ改善されていません。【合気道道場】
コロナ感染第8波という3年に及ぶコロナの影響により、経営環境が不確実性を増し、なかなか見通しをたてられない厳しい状況にあります。10月～12月期、1月～3月期の予測も感染状況で大きく左右されます。時短要請などの協力金も今後なくなり、企業の真の力が試される時代に突入したと思います。【飲食業・宿泊業】

<p>コロナ禍の葬祭業において、小規模化、簡素化の流れは止まらず顧客の販売単価の減少は避けられない。【葬儀】</p>
<p>コロナ禍も常態化し、世間の動きも矢継ぎ早にコロナ禍前の状況にもどりつつある中、弊社のレジャー売上も回復傾向にある。ただし自動車の半導体不足による生産遅れにより、カーリースにおいては、受注はいただけるも納期遅れが依然続いている。【レンタカー・カーリース・中古車販売】</p>
<p>コロナ禍の影響は長引くと予想はしていたけど、コロナ禍そのものが度々の山あり谷あり状況なので営業自体がそれに振り回されている様で中々コロナ禍前の景気は戻って来ていない様に感じています。これからは物価の値上り激しいですね。大手さんの様に度々の価格変更は出来ないので増々きびしくなると思うけど辛抱して頑張るしかないのかも？ご常連客は大切な宝物だから…。【飲食業・宿泊業】</p>
<p>コロナ不振、中食の台頭。【餃子専門店】</p>
<p>サービスの値段は変わらないまま、仕入れのコストだけ上がり利益が減っている。薄利多売の状態。【ネイルサロン、各種ネイルサービス】</p>
<p>テレワークが増えていることによる、出社の減少による、オフィスの不利用がふえ、オフィス自体が使われなくなってきた。【観葉植物レンタル業】</p>
<p>技術者不足で、パートナー単価が上昇している。そもそも見つからない。【ソフトウェア開発、インフラ構築】</p>
<p>パート事務員の高齢化に伴いDXへの対応と対策。【関連グループ会社の経理・総務関係処理】</p>
<p>まだまだコロナの影響があり、家飲みになれてしまっているお客様のもどりが少ない。家飲みのお客様へもアピールできるよう、冷凍ピザなど販売促進をしている。【バー業務、カクテル作成、提供。ピザ・パスタ類の作成、提供。】</p>
<p>まだまだ不景気ですね。【整体、便利屋業、古物商】</p>
<p>ロシアウクライナの戦争、先行き不透明な円安、新型コロナウイルス、原材料の仕入れ価格の高騰、消費者心理に於ける消費低迷、販売価格の上乗せによる販売不振、販売先も上記の事由に於いて低迷し煽りを受けてしまう。【墓石清掃、墓参代行、墓石クリーニング、墓石コーティング、墓石メンテナンス、石材特殊清掃、埋葬】</p>
<p>一時的にでも軽油税の撤廃を！【自動車部品】</p>
<p>飲食店コンサルティング業についてクライアント全般において苦しい経営状況が続いており、通常のコンサルティングができる段階ではないと言った状況です、新型コロナ対策器具(次亜塩素酸水生成器、空気清浄機他関連機器)の販売、リースおよびレンタルについては、昨年は相模原市、神奈川県補助等があり当社空気清浄機等がそれらを利用することによって購入してもらいましたが、現在それらはなくなり、当社としても売り上げが伸びない状況です。【飲食店コンサルティング業、新型コロナ対策器具(次亜塩素酸水生成器、空気清浄機他関連機器)の販売、リースおよびレンタル。】</p>
<p>飲食店の回復を感じる。人手不足、経費増加の声を良く聞く。【ITサービス(HP制作、運用、Webシステム製作、運用)】</p>
<p>円安および原材料高騰の長期化による景気への影響。【中小企業金融】</p>
<p>円安ドル高の影響もあり、インフレが続いている。仕入れ単価は上がるが、受注単価を上げられない状況。【中小企業経営コンサルティング、生命保険代理店、損害保険代理店】</p>
<p>円安の影響は大きい。【養鶏】</p>
<p>円安や値上げの影響を徐々に身の回りで感じるようになった。【移動販売による飲食業】</p>
<p>何故か売上が1月からずっと落ち続けている。【犬猫の診療】</p>
<p>介護を受ける人の数は増加していますが、それを担う介護ヘルパー特に訪問介護に携わる人材が少なく、その対応に苦慮している。【訪問介護事業】</p>
<p>会社が投資フェーズなので、コロナ・円安・利上げなどの時流を呼んで対応していく感じになる。【撮影とデザイン】</p>
<p>外出する機会が減っているので、来店回数が減っている、本人、家族がコロナになったので営業日も減りました。【美容室】</p>

外出減少の慢性化。【美容業】
感染者の増加、物価高騰の煽小。【ダンス教授所】
企業のコロナによる投資自粛の継続。【グリーンレンタル】
機材(音響、照明)が円安で輸入ものが値上げし続けている。【音楽スクール、楽曲提供、生演奏】
助成金を活用する企業からの見積もり、制作依頼が増加している。【編集・グラフィックデザインワーク、商業印刷物全般、ホームページ、ロゴマーク・看板・サイン】
景気がなかなか良くならないと感じる。安売り店に客が流れている感じがする。【美容業一般】
景気について特に感じることはない。【許認可申請、その他行政書士業務】
景気は悪くなる一方です。【専門・技術サービス業】
景気感等。【機械設計】
経営に不安な顧客が多い。【保険全般】
建設業(特にマンションしかわからないが…)は工事費アップの為建築中止が増加して景気悪いと感じ始めている。【不動産仲介、不動産コンサルタント、権利調整(地上げ含む)】
原価上昇による、販売不振。【焼鳥、焼肉、ハンバーグ】
原材料の高騰による仕入価格の上昇を客先に転化できるか。また慢性的な製品不足をいかに回避するか。【伝動機】
現在、不動産賃貸業に変化なし。【不動産業・物品賃貸業】
個人で保険所登録や税金申告をしてないサロンが多く、安価になりがち。【まつ毛、眉毛】
雇用状況。【人材総合サービス、(人材派遣・人材紹介・登録支援機関)】
顧客に高齢者が多く、施設入所、入院、自然減等で新規客の望みが無い。【美容業】
顧客に新型コロナの影響が本格的に出てきている。【保険代理業】
顧客の高齢化、コロナ禍などによる来店頻度の低下。新規客の減少。【美容業、パーマ、カット等】
顧問先の状況が著しくなく値上げが難しい。【税理士事務所】
光熱費(特に電気・ガス)の高騰が止まらず心配している。現場(サービス部門・パート含む)の高齢化が進む中、病気等で急に欠勤が生じた場合の勤務シフトの変更に苦労している。【会員制ゴルフクラブの運営】
光熱費等の上昇。【ビジネスホテル】
好況感は特に感じられないが、今年春ごろから不動産相場が上がってくる、長く続くとは思われないが、動向には注意が必要です。【宅地開発企画販売、売買仲介、賃貸管理・斡旋、駐車場管理】
高齢化でドライバー不足を感じている。景気低下で産業廃棄物搬入不足を感じている。【産業廃棄物収集運搬業】
高齢化に伴う不動産の(土地)過剰に伴う売却の増加傾向あり。【土地調査、測量、表題部の登記】
今期7月～9月は産業廃棄物の入荷少なく仕事量減少。10月より例年どおりの仕事量に回復。【産業廃棄物リサイクル、非鉄金属製錬原料販売】
今後の景気。【賃貸マンション、アパート】
最近の消費者状況(特にDX)。【税理士業】
最賃上昇による収益性の悪化は否めない。顧客への転嫁は即効性に欠け、その間はおもろに収益の減少となる。【清掃・警備・設備保守】
最低賃金の増加額、ガソリン価格の上昇。【廃棄物処理】
昨今の災害発生状況により国土交通省などの施策が自然環境保全から災害対策へシフトする傾向にあることから、弊社が受注している調査業務が減少の傾向にある。【自然環境調査】
仕事が集中したときに現場調査を行う人手が不足し、受注出来ないことが増えた。
現場の人手の高齢化、次世代への引継ぎが進んでいない。【土質・地質調査、土壌汚染状況調査】
仕事の出来る従業員が不足。【税理士】
仕入・調達コストの上昇と、納期が著しく伸びている。変わらず人手不足である。【廃棄物処理、再生資源卸売】
仕入の上昇、物価高が辛い。【定食屋】
仕入の上昇により仕事をやっても利益が出ない。【海外引越業】
仕入れの値上げがとまらない。【クリーニング】

仕入れ・採用コスト上昇を吸収しきれなくなっており、価格転嫁を検討せざるを得ない。【コンサルティング、社員研修、ネイルサロンの運営】
仕入れ単価、人件費があがるのに、全てをなかなか販売単価へ転嫁できていない。インボイスなどが始まると免税業者とのやり取りもどうするのかなど。負担が増えるのでは危惧している。【建築物清掃】
仕入れ単価、土地相場上昇。【不動産売買】
仕入価格上昇。【トラック輸送】
仕入食材、電気ガスの値上がりが耐えられません。【中華料理】
仕入単価、経費の値上がりとまらない。不安。【レストラン】
仕入単価の上昇。【レストラン(フランス料理)】
仕入単価の上昇、従業員不足の為の募集経費の増加。【福祉施設運営】
仕入単価の上昇による利益幅の減少と最低賃金の引き上げによる人件費の増加及び最低賃金の引き上げや社会保険適用拡大によるパート従業員の労働時間抑制による人員不足。国の政策が働く人の時間と意欲をなくしている現実を把握していない政策に今後の日本経済が悪くなることを感じざるを得ない。【給食受託業】
施術の人数は少し減ったが、単価を3月から上げて変わらず売上はいけている。【全体の施術】
事業所のテレワーク増加により、顧客のオフィスの設備に対する思考が変わってきた為、オフィスや金融業界のセキュリティ製品の受注が減少しています。それに伴い元請け会社もセキュリティ製品の部門を縮小する傾向に有ります。【セキュリティ製品の電気工事設定作業、点検保守作業】
従業員不足。【介護】
従業員不足、求人を出しても来ない。【美容業】
従業員不足、業務内容の改善急務。【企業向け昼食弁当】
従業員不足。物価高を価格に反映できず、収益率が悪化している。【運輸業】
諸経費の上昇。【宅配便】
旅行需要は回復傾向も収益大幅増には繋がらず。【旅行業】
商材・消耗品の価格上昇にともなう、収益率の低下に対する対応が難しい。【自動車整備業】
商店街でお祭りを開催したこともあってか、お客さんがすごく増えている。【理容】
消費者の動きが戻らない。【自動車関連】
新規顧客を開拓する必要があるが、アプローチ方法が思い浮かばない。【ICTサービス】
新規顧客問合せが増加しました。【社会保険労務士業】
新型コロナウイルスによる景気後退、仕入れ価格の上昇。【電気保安管理サービス・電力コンサルティング】
新型コロナウイルス感染者数に関して利用者の増減が激しい。【飲食の提供】
新型コロナウイルス感染症による影響は、小康状態にあるものの、「物価高」や「人手不足」といった問題もあり、楽観視できる状況ではなく、引き続き注視しなければならない。【不動産賃貸業】
新型コロナの収束後における景気の低迷モードやロシア中国等の国際情勢に影響を受ける原材料価格の高騰並びに品不足等の影響から生じる今後の経済状況が不透明でどのような打開策を講じれば良いのか、五里霧中である。【不動産賃貸管理、不動産売買、不動産売買仲介、不動産コンサル】
人員不足。【清掃】
人件費・燃料費の高騰、運賃の値上げができない。【食品輸送】
人件費の上昇により値上げ分が全て消滅。更に食材の高騰。【ラーメン店】
人材については、オーダーは旺盛だが、人材確保が著しく困難になってきている。【総合人材サービス業】
人材不足。【専門・技術サービス業】
人手不足。【パーマ、カラー、カット】
人手不足、人件費、諸経費の上昇。【警備請負、セキュリティ機器販売】
人手不足は深刻な状況が続いています。【ダスキンの販売、清掃業務、家事代行、庭木剪定】
生活必需品の値上げで必要以上の物にお金をかけなくなっている。【鍼灸院整骨院】

水道光熱及び燃料の単価UP。で経常利益の減少。【リサイクル業&産業廃棄物中間処理&収集運搬】
誠実な対応が薄れてきている気がします。【運送】
設計受託業務が減少が傾向にあったが、やや持ち直してきた。【設計受託・請負業務、労働者派遣事業、求職者支援訓練事業】
先行き感の不安による消費低迷。【不動産コンサルティング、介護タクシー】
鮮魚店等の小売業の経営悪化。【税理士】
前期の持続か給付金や、事業継承給付金には本当に助けられました！【鑄造(鉄、非鉄)時の凝固シミュレーションソルトの製造・販売】
全員が60歳以上の為、いつまで続けていけるか不安。【ビルハウスクリーニング】
全体的に景気は上がりつつあるが、物価高の影響で可処分所得が減少傾向にあり、消費のマインドが下がっていると見受けられる。【学習塾】
全体的に少なくなってきた仕事を取り合っている印象です。【産業機械の設計製図】
全体的閉塞感があり、人の流れが悪いように思います。【全身美容業】
葬儀に掛ける費用の低下によるもの。【葬儀関連】
退職者急増に対し採用出来ず苦戦。(9~10月8名退職、採用0)(退職者アマゾン物流に再就職が8割)。【構内請負業務と派遣事業】
大きな意味で業界の職域が、IT化の流れで脅かされていると感じる。【司法書士】
大規模な売上高減少による、資金繰り困難及び人員不足。【検査・梱包】
中途採用が厳しい。【人材派遣】
仲介業務の選任従業員の採用により営業成績が伸びております。新規顧客の開拓にも力を入れて業績を伸ばしたいと思っています。【不動産賃貸管理及び仲介】
日銀黒田総裁の零金利政策に固執が大変不満。政府も何の対応策無しが不思議。アメリカの高金利政策に対応して変更させるか、退任を迫るか何故しないか。円安になり、高物価になり、いらいらしている。【税務士業務】
日本経済全体が不安です。その影響として、間接的に当社業務にも影響を与えてくるものと想像します。【賃貸用不動産の管理業務、不動産コンサルティング業務】
燃料価格の高騰。【プロパンガス配送】
燃料価格の上昇。【一般旅客自動車運送事業、保育事業】
燃料高騰、人手不足。【日用品、生活雑貨】
燃料代の高騰や人件費関連の費用が上がる中でコストを販売価格に反映しにくい状況がる。【貸切バス、乗合バス】
燃料費高騰。【少年サッカークラブ、フットサルコート運営】
売上が低迷し、それを維持しているのが、人員が景気良いときに比べ過剰。【鍼灸接骨院】
売上の伸び悩み、新規の伸び悩み。【鍼灸院】
売上は好調で業務拡大しているが、時間に限りがあり全て受けきれない。【経営コンサルティング】
販売価格の高止まり、また住宅ローン審査基準が上がる。また、生活物資高騰・担税負担上昇による所得減により来期より起こるであろう金利上昇も相まって消費支出減少が続いている。【不動産買取再販・仲介・管理・コンサル】
販売価格を上昇させてきた今季ですが、その利幅にて従業員の給与等待遇を改善してきました。来期にも待遇を改善したく値上げを考えています。ただ個人消費の動向は気になるところです。その改善策として優良客の集客に力を入れていきたいと考えています。【美容業】
販売単価を11月から値上げ、客数客単価が不明(予測できない)。【酒・料理】
美容部門の売上が伸びない。【鍼灸院】
必要な資材の調達に係る納期が、当初想定の倍以上になる事がある。国内メーカーの撤退、中国等への依存度が高くなってしまいう資材・部材が多すぎる。このままでは、日本国内で製造業は急速に衰退してしまうのではないかと。【太陽電池の研究開発】
不景気。【その他のサービス業】

不景気、公共料金の上昇、税金の増加。【動物のしつけ・訓練・犬の飼い主指導、セミナー事業、教育機関講師出向、コンサルタント事業】
不景気感が出ている。【賃貸と売買の仲介】
不透明な経済環境と、退職者が増えていること、人員もまた補充が出来ており流動化が顕著な状態。【部品材料、一般雑貨の輸送】
物価の上昇。【ケータリング】
物価の上昇。【航空写真測量】
物価は上がってきているが、受注単価があがらない。【専門・技術サービス業】
物価高。【建設機械・自動車整備業】
物価高に付き経費増大。【仲介、管理】
物価高を感じます。【その他のサービス業】
物価上昇。【生ジュース、調理販売】
物価上昇による価格転嫁ができず、また、賃金上昇による収益悪化の状況と客足が伸びず、売上は以前の半分以下。【居酒屋】
物件高止まり。個人需要微減、建築費等高騰。【不動産仲介】
米経済は2023年にリセッション(景気後退)入りする可能性つまり回復の見えない恐慌状態に入ることが心配です。【構内請負業、製造派遣業】
明らかにコロナウイルスの影響を受けている。【相続手続き、各種許認可書類作成】
夜の営業に客がもどらない。【飲食店】
来店回数の減少。地元客の減少。【酒、つまみ、食事】
来年の世界恐慌、食糧危機など世界的激変。【社会保険労務士業】

## 経営上の問題点

### 単純集計

経営上の問題点(3つまで回答可、n=902)

	回答割合	
売上不振	39.0%	352
受注単価・販売価格の低下	10.3%	93
収益率の低下	34.1%	308
個人消費の低迷	14.0%	126
販売先の減少	9.2%	83
大型店の進出	1.2%	11
チェーン店等との競争激化	1.0%	9
公共工事の減少	5.4%	49
民間工事の減少	5.8%	52
仕入単価の上昇	55.9%	504
円安の影響	15.5%	140
円高の影響	1.4%	13
代金回収困難	1.3%	12
諸経費の増加	27.3%	246
従業員(含、臨時)が過剰	0.9%	8
従業員(含、臨時)が不足	24.3%	219
設備不足・老朽化	11.0%	99
特になし	5.7%	51

### 製造業

今回調査を見ると、「収益性の低下」、「円安の影響」、「諸経費の増加」が増加している。円安の影響とそれから派生したコストアップが影響しているようである。

	R3年10~12月 n=224	R4年1~3月 n=214	R4年4~6月 n=229	R4年7~9月 n=180	今回調査 n=180
売上不振	46.9%	46.7%	43.2%	28.8%	45.0%
受注単価・販売価格の低下	12.9%	13.1%	11.4%	10.5%	13.1%
収益率の低下	33.0%	35.5%	38.4%	29.7%	40.2%
個人消費の低迷	3.1%	4.2%	2.6%	1.3%	2.2%
販売先の減少	12.5%	6.5%	8.3%	6.6%	8.3%
大型店の進出	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.4%
チェーン店等との競争激化	0.9%	0.5%	0.0%	0.0%	0.4%
公共工事の減少	1.8%	0.5%	0.9%	0.0%	1.3%
民間工事の減少	1.8%	0.9%	2.6%	1.3%	1.7%
仕入単価の上昇	61.6%	65.0%	70.7%	55.5%	70.7%
円安の影響	6.3%	5.1%	18.8%	12.2%	24.9%
円高の影響	0.4%	1.4%	2.6%	1.3%	2.6%
代金回収困難	1.3%	0.9%	0.4%	0.0%	0.0%
諸経費の増加	16.1%	19.6%	21.4%	17.0%	24.9%
従業員(含、臨時)が過剰	1.3%	1.4%	2.2%	0.0%	0.0%
従業員(含、臨時)が不足	21.4%	21.0%	17.5%	13.5%	17.0%
設備不足・老朽化	16.1%	15.9%	11.4%	12.2%	14.8%
特になし	2.7%	2.3%	1.7%	1.7%	3.5%

## 経営上の問題点(業種別)

### 建設業

「売上不振」、「諸経費の増加」、「従業員が不足」、「設備不足・老朽化」が増加し、「受注単価の低下」「収益率の低下」、「仕入れ単価の情報」が減少した。建築資材については一時期の資材不足・価格高騰が収まりつつあるが、逆に諸経費が増加しているようである。資材は入りだしたが人で不足もあり、売上増加には結びついていないようである。

	R3年10~12月 n=184	R4年1~3月 n=144	R4年4~7月 n=147	R4年7~9月 n=124	今回調査 n=124
売上不振	34.8%	31.3%	21.8%	23.8%	43.5%
受注単価・販売価格の低下	19.6%	17.4%	21.8%	17.0%	9.5%
収益率の低下	29.9%	34.0%	40.1%	33.3%	27.2%
個人消費の低迷	5.4%	5.6%	6.1%	4.8%	10.2%
販売先の減少	5.4%	4.2%	5.4%	5.4%	7.5%
大型店の進出	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
チェーン店等との競争激化	2.2%	0.7%	0.7%	0.7%	0.7%
公共工事の減少	19.6%	20.8%	15.6%	8.2%	6.8%
民間工事の減少	21.2%	22.2%	21.1%	15.0%	5.4%
仕入れ単価の上昇	46.2%	53.5%	66.7%	57.8%	31.3%
円安の影響	3.3%	2.8%	6.1%	4.1%	7.5%
円高の影響	0.5%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%
代金回収困難	0.5%	1.4%	0.0%	0.0%	4.8%
諸経費の増加	15.2%	15.3%	15.6%	14.3%	36.7%
従業員(含、臨時)が過剰	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%
従業員(含、臨時)が不足	31.5%	30.6%	29.3%	21.1%	39.5%
設備不足・老朽化	6.0%	5.6%	3.4%	2.0%	13.6%
特になし	7.1%	3.5%	0.7%	4.1%	15.6%

### 小売業・卸売業

「販売単価の低下」、「民間工事の減少」、「仕入れ単価の上昇」、「従業員が不足」が増加、「個人消費の低迷」、「諸経費の増加」、「円安の影響」が減少した。全体の傾向としては、売上は回復傾向、仕入れ単価は依然として上昇しているが、販売単価は下がっており、小売の品目によって業況にかなりの差があるようである。「チェーン店との競争激化」はゼロになっており、大手チェーンの出店活動が低調であることがわかる。

	R3年10~12月 n=158	R4年1~3月 n=129	R4年4~6月 n=144	R4年7~9月 n=92	今回調査 n=92
売上不振	51.9%	47.3%	49.3%	22.2%	26.4%
受注単価・販売価格の低下	12.0%	8.5%	5.6%	4.2%	15.3%
収益率の低下	34.8%	38.0%	32.6%	25.0%	30.6%
個人消費の低迷	29.7%	34.9%	29.2%	18.8%	5.6%
販売先の減少	21.5%	17.8%	16.7%	6.9%	6.9%
大型店の進出	3.2%	3.9%	2.8%	2.1%	0.0%
チェーン店等との競争激化	10.1%	8.5%	9.0%	0.0%	0.0%
公共工事の減少	2.5%	0.8%	0.7%	2.1%	9.7%
民間工事の減少	2.5%	0.0%	3.5%	0.0%	18.8%
仕入れ単価の上昇	33.5%	49.6%	54.2%	41.0%	58.3%
円安の影響	6.3%	6.2%	11.8%	13.2%	6.9%
円高の影響	0.6%	0.0%	3.5%	0.0%	1.4%
代金回収困難	3.2%	1.6%	0.7%	1.4%	2.1%
諸経費の増加	20.9%	16.3%	13.9%	16.7%	18.1%
従業員(含、臨時)が過剰	1.9%	0.0%	0.7%	0.0%	1.4%
従業員(含、臨時)が不足	12.7%	12.4%	13.2%	5.6%	20.1%
設備不足・老朽化	5.7%	12.4%	6.3%	5.6%	2.1%
特になし	6.3%	3.1%	3.5%	1.4%	3.5%

## 経営上の問題点(業種別)

### 飲食業・サービス業

「売上不振」「収益率の低下」「仕入れ単価の上昇」「円安の影響」が増加した。前期減少した多くの指標が揺り戻したようだが、「仕入れ単価の上昇」は上がり続けており、物価上昇の影響が表れているようである。

	R3年10~12月 n=418	R4年1~3月 n=353	R4年4~6月 n=382	R4年7~9月 n=290	今回調査 n=290
売上不振	39.6%	42.8%	37.4%	25.7%	38.5%
受注単価・販売価格の低下	8.6%	7.1%	5.8%	5.8%	7.1%
収益率の低下	27.3%	29.7%	25.7%	21.7%	34.6%
個人消費の低迷	19.2%	19.3%	21.5%	13.6%	25.7%
販売先の減少	9.1%	12.7%	8.6%	5.8%	11.3%
大型店の進出	1.0%	0.6%	1.0%	1.0%	2.6%
チェーン店等との競争激化	2.5%	2.5%	2.1%	0.3%	1.8%
公共工事の減少	2.0%	2.0%	1.8%	2.1%	5.8%
民間工事の減少	2.0%	2.5%	3.4%	1.0%	3.4%
仕入れ単価の上昇	26.0%	26.3%	33.0%	26.7%	55.5%
円安の影響	2.3%	1.1%	9.2%	7.6%	16.2%
円高の影響	0.0%	0.3%	1.8%	0.8%	1.3%
代金回収困難	1.5%	1.4%	1.6%	1.0%	0.5%
諸経費の増加	20.5%	25.5%	22.3%	20.4%	28.5%
従業員(含、臨時)が過剰	1.3%	2.0%	1.6%	0.8%	0.8%
従業員(含、臨時)が不足	29.3%	23.5%	25.9%	18.6%	24.3%
設備不足・老朽化	12.1%	12.2%	12.0%	8.9%	11.0%
特になし	14.4%	8.8%	10.2%	7.6%	3.9%